

1 自己評価及び外部評価結果

2F

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201133		
法人名	有限会社サライ		
事業所名	グループホームみんなの家		
所在地	福岡市西区能古324-1		
自己評価作成日	平成25年1月28日	評価結果確定日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

博多湾に浮かぶ小さな島、能古ノ島は山や海に恵まれた環境の中にグループホームが建っている。入居された方たちも全体のADL低下がみられるが本人の意思や自己決定を尊重し思い思いに生活ができる支援を行い、寝たっきりや入院させない為に、離室や散歩を促せ転倒リスクに気をつけている。月毎の行事はもちろん、年2回程島外のバスハイクや、遠方の希望地にお連れして入居者に反映している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し毎月の職員会議時に全員で唱和し内容を確認し意識を高めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、季節の行事、学校行事への協力により交流を深めている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一員として地域で行われる認知症研修に参加している。 中学生の福祉体験に協力し、実際に体験する事で介護支援や認知症の理解を促している	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2月毎に運営推進会議を実施し、現状報告や課題をご家族や包括、市の職員と地域の方に意見を求め、サービスに反映出来るように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各担当の方々と連絡を取り合い、ケアサービスの向上などに努め協力関係を深めている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険により緊急性がある場合には家族の同意を取り、早目の取り外しを担当者と話し合い検討しながら取り組んでいる。 研修や資料を作成し身体拘束の知識を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に参加し、報告書作成や職員会議時、研修報告を設け職員に周知し、意識を持ち虐待防止に努めている	

自己・外部評価表2F(

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、報告書を回覧して会議に報告書を元に話し合い、学ぶ機会を持ち必要時それらを活用できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には本人、家族に解り易く丁寧に説明を行い誤解、誤認のないように努め本人、家族の要望や思いを汲み取りサービスに繋がるように図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを郵送し、意見・要望を集約にて回答を返送したり、運営推進会議や職員会議に報告し反省や改善に向け施設運営に反映するように努めている		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員にアンケートを実施し、その後個人面談を行い考察を行い解決につなげている。また、意見、要望があれば申し送り、回覧し全体ミーティングで取り上げ話し合い施設運営の向上を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、一時考課後、決定考課を行い賞与・昇給へ繋げている。その後、日頃の職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握し評価を元に面談を行いスタッフが向上心を持って働ける環境作りに努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢をとわず、グループホームにふさわしいかたを採用している。 資格取得や研修参加の要望があればシフトを考慮している。また公休、有給希望時は申し送り帳に記入してもらい、配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内外研修の参加に取り組み、全体ミーティング時に報告、勉強会を行い職員に周知し業務時の人権侵害の防止に努めている		

自己・外部評価表2F(

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力、経験に応じた施設外研修などを積極的に受けられるよう支援する(シフトの考慮)体制を整えている。また全体ミーティング時にも内部研修を兼ねた勉強会を実施しスタッフ間で議論し介護の質向上に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の同業者が開催する研修に参加し、その後全体ミーティングの際に研修報告を行い、職員全体に周知させサービスの質向上につながる環境を提供している。同業者の訪問時思い思いを話し合い互いの相乗効果となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや望まれている事を日常の中でゆっくり時間をかけ傾聴し、安心できる支援を行い信頼関係を築き、職員一同でニーズを受け止めるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを把握し、新たな要望、意見があれば速やかに対応し受け入れが出来るのか職員全体で検討してサービスに導入している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、各担当者と支援が可能か見極め、早急性があれば関係者、ケアマネ、スタッフを交えお互いの必要としている支援を可能な限り柔軟な対応をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の生活暦や経験、情報を共有し尊敬の念を持って寄り添い、不安、寂しさ等を共感し傾聴できる関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントや行事の参加を呼び掛け本人と家族の絆を大切にしている。 日常の様子を家族会の時や面会時に報告し情報を共有し信頼を持って共に本人を支えていく関係を築いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、施設行事にも地域の方、学生の参加を呼びかけている。本人に対しても地域行事や親族の行事に参加出来るようお誘いしたり来訪して戴いたりして支援している		

自己・外部評価表2F(

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の性格や気質、認知度を理解し、お互いの相性に配慮しトラブルや誤解が生じないよう職員が仲介し場の雰囲気作りをしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られる際にはアセスメント、ケアプラン等の支援情報を提供し、継続的にサービスが受けられるよう連携を図っている。また本人や家族がいつでも相談が出来るような体制を整えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画を立てる時には、担当者会議を開催し、家族、本人の希望、意向を聴きアセスメントしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅や病院に出向き担当職員やケアマネより介護計画書やサマリーを提供して頂き、家族とも面談を行い、情報を収集しサービス利用に繋げている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護日誌の記録や訪問診療の主治医からの居宅診療管理指導を職員間で共有し周知している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は月1回担当者会議を実施し、その内容に基づく意見やアイデアは介護計画に反映させ、家族への説明、同意を求めて作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを作り、ケアプランの実施表、生活状況、介護日誌、バイタル表に記入身体的、精神的変化を職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		

自己・外部評価表2F(

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望や家族の状況により柔軟に対応しサービス提供をしている。個別の買い物や宿泊、外出時の送迎、病院受診の支援、家族来訪時の送迎等を行い不便さを感じさせないよう支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所による地域巡回や施設スタッフが校区消防団に所属し消防団や地域の協力の下で避難訓練を行っている。地域の中学生による福祉体験学習の教育現場として協力し交流を深め、イベント時は地域のサークル活動者に参加を依頼をしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の要望または、希望が得られるよう納得され気兼ねなく受診できるよう支援している。また、身体的状況変化が見られた時は早急にかかりつけ医やご家族、関係機関に連絡し連携により適切な医療が受けられるように支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の健康状態の変化に気を付け、特変時は施設看護師、かかりつけ医看護師と相談し連携を取り早急かつ適切な対応が出来るよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、かかりつけ医の診療情報や施設内での生活状況を提供し、情報交換をしている。本人にとって適切な医療が受けられるよう支援し、早急に退院出来るよう医療関係者やご家族から協力を得れるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「利用に際しての事前指定書」の中で、回復が殆ど不可能になった場合(看取り希望、病院指定)などの治療について要望を受け同意をとっている。運営推進会議や家族会議などで話し合い、看取り希望時は医師を交え今後の方針、対応について話し合いに取り組んでいる。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時マニュアル」を作成し事故発生時や緊急時に備え、校区のAED講習会やホームの勉強会でダミーを使用し、実践力を身に付けたり、防災訓練に参加し福岡市消防局の「救マーク」表示認定事業所に認定されている。アクシデント・事故報告書・ヒヤリハットが出た場合や必要時は会議で話し合い早急に取り組んでいる。		

自己・外部評価表2F(

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「災害対策マニュアル」を作成し毎月の職員会議時や運営推進会議時に入居者、消防団、地域の方を交え消防法に基づいた避難訓練を設定し行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシー保護の為に個人情報法に基づき同意書を作成し本人や御家族より同意を得て、各入居者様の個人情報は守秘義務の徹底を職員に周知するよう努めている。また入居者の今まで携わってきた環境や生活、人格等を尊重しプライドを損ねない声掛けや対応を行っている		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択や外出、買い物等、個々の思いや希望、要望を踏まえ自己決定が出来るような声掛けや対応を行っている。また、意思の疎通が困難な入居者は性格や生活の中から汲み取り、出来るだけ思いに近いように支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、本人の体調や、ペースに合わせた生活をして頂き、意思確認が可能な方は、起床、休息、入浴等は出来るだけ本人の希望に沿った支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中では入居者の要望を踏まえ、身だしなみや洋服の整えに気をつけ配慮している。イベントや外出の際は化粧や洋服選びを支援し個性を大切にする支援をしている。また隔月に地域の訪問理容師の依頼を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスの利用をしている為、献立は決まっているが、出来るだけ食べやすくしたり、材料を工夫しメニューの変更も行うなどして、美味しく召し上がって頂けるよう提供している。またイベントや季節行事にあった食事を楽しんで頂けるように工夫している。入居者にあつた、調理補助、お盆拭きをして頂き生活支援を行っている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスのメニューは栄養士が栄養バランスやカロリー計算をされ考慮されている。個別に食事、水分摂取量をチェックし、毎月体重測定も行い健康管理に気を付けている。		

自己・外部評価表2F(

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の状態、認知度に合わせて義歯の洗浄や洗口、歯ブラシを使用しての口腔ケアを本人の残存機能を活かせる支援を行っている。定期的な訪問歯科や受診が必要な方は、口腔状態を把握し、アドバイスや相談にてケアに取り組んでいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをすることにより、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しトイレ誘導、声掛けを行いトイレでの排泄が出来るよう支援している。夜間時もポータブルトイレを設置する等し安易にオムツをしないようにするなどし最小限に考慮している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時やおやつ時に乳製品や食物繊維の多いものを提供し、散歩や体操を行い便秘予防に努めている。しかし排便困難な入居者には、医師と相談し緩下剤を個々に合わせ使用量、頻度で使用している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入ることが出来、時間や曜日、順番等はなるべく本人の要望に沿って支援をしている。入浴を拒まれる方については、時間をおき、スタッフが交代し、声掛けを行う等し不快や不安を与えないように努めている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の状況を一人ひとり把握し午睡を促したり、散歩やレクを取り入れて体調管理に気をつけ、睡眠を促せるよう照明や室内の温度に気を付けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診時の薬の処方内容や往診時に薬の変更があった場合や体調変化には、職員が解り易いように個人の介護記録に記入している。服薬表に処方説明書を貼って確認が出来るようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月毎の行事や誕生日会、バスハイク、ドライブ等を企画し入居者の方々と一緒に行い、喜びや、楽しみを共感している。また、できるかたは、洗濯もの畳や野菜の皮むきをして頂いている。煙草を吸われている方は要望時渡している。		

自己・外部評価表2F(

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の希望があれば職員調整で日程を決め島外に出かけ、買い物や行きたい場所の支援をしている。 家族と外出時も島外(浜渡船場)まで送迎し出かけられるように支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じ、毎月のお小遣いを渡し本人が買いたい時に買物にお連れして、領収書を出納帳に貼り、管理している。 普段買い物に行かれない方もバスハイクや個別外出時にお金を所持し使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話要望や手紙のやり取りが途絶えないように本人が希望されたらハガキや切手を一緒に買いに行き自ら出せるよ支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の両端に窓が取り付けられてあり、東側には、海や朝日が見え季節の移り変わりが感じられる。リビングのテーブルには、季節の草花を飾り臭いや、色を感じ取れるよに工夫したり、室内の温度や音にも配慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、将棋や囲碁をされたり、エレベーターの空間にベンチやテーブルを設置し気の合った同士で過ごされ、居室でも囲碁やトランプ、縫物をしたりして独りで過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前暮らしていた思い出の物や写真、使い慣れた家具を居室に飾り家からの延長に繋がるように活かしている。 遠方から来訪された入居者の家族と過ごせるように和室を準備している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室、リビングには歩きやすいよう手すりを設置し、転倒や事故に気を付けている。各部屋にネームプレートを下げ確認が出来、入居者が安心した生活が送れるように工夫している。		